

学校法人 法泉寺学園
令和5年度 事業報告書

課題

- ① アフターコロナの保育内容と園児数確保
- ② 新遊具の選定
- ③ 人材確保

報告

- ① 令和元年度と比較すると令和4年度は園児数が40名近く減少している。コロナ禍で保育内容の変更を余儀なくされたこともあるが、真摯に反省し、コロナ禍の経験も活かしながら栗生幼稚園の魅力をしっかり発信し、より安全で安心できる栗生幼稚園ならではの保育や行事を行い、園児数回復に努めてきた。また、両親が仕事をしている子ども（2号こども）の受け入れ可能人数を、これまでの22名（年少4名・年中9名・年長9名）から30名（年少8名・年中11名・年長11名）に増やした。その結果、年少児の人数は令和4年度の59名から令和5年度は62名、令和6年度は5月現在で70名と増加している。同時に、利用定員をこれまでの240名から200名に変更したことで、子ども一人当たりの補助金単価が増額され、補助金収入を増やすことができた。今後もこうした努力を積み重ね、栗生幼稚園の魅力をしっかり発信して園児を確保しつつ、補助金などの収入確保にも努めていきたい。
- ② 運動場西側のメタセコイヤ周辺に新しい遊具を設置すべく遊具の選定を行ってきたが、物価や人件費の高騰で選定が思うように進まなかった。一方で、園庭・園舎と改修工事を進めているにもかかわらず、職員室は未だ手つかずの状態である。今後のことも考え園庭遊具よりも職員室改修を先に行うべきだと判断し、数社の業者に職員室の改修案作成を依頼した。
- ③ 職員の定着率はよく、また、一度退職した職員の復職も多い。更に、パートの採用もできており、職員は充実している。更に、岸田総理大臣が掲げた「処遇改善③手当」を、正職員・パートを問わず全ての職員に適切に配分しての支給を行っており、充実した給与と定着率の高さは自信をもってアピールできる。今後は、支援の必要な子どもが増えてくるため、担任を担う正職員は勿論のこと、担任のサポートや支援の子どもを補助するパート職員の確保を行っていきたい。